

# 秋高連 全体総会

(平成21年度)



(平成20年度 全体総会の会場光景)

期 日 平成21年 7月22日(水)  
時 間 午後6時・開 始  
場 所 アルカディア市ヶ谷 (私学会館)  
(東京都千代田区九段北4丁目2番25号)

主 催 在京秋田県高等学校同窓会連合会

# 秋 田 県 民 歌

指 揮 上山 紀子 (秋田北高)  
ピアノ 上山 英明

倉 田 政 嗣 作詞  
高 野 辰 之 校閲  
成 田 為 三 作曲

しゅうれいむひ  
1. 秀麗無比なる 鳥海山よ  
きょうらんほ  
狂瀾吼え立つ 男鹿半島よ  
しんぴ  
神秘の十和田は 田沢と共に  
な え ほこりこすい  
世界に名を得し 誇の湖水  
さんすいみな し  
山水皆これ 詩の国秋田

めぐ やまやま れいき  
2. 廻らす山山 靈気をこめて  
おの ねひび せんこ びりん  
斧の音響かぬ 千古の美林  
ちか こうみやく むげんほうこ  
地下なる鉱脈 無限の宝庫  
みわた ひろの びょうほうかす  
見渡す広野は 渺茫霞み  
こがね みの ゆた  
黄金と実りて 豊けき秋田

あつたねしんえん きょじん おしえ  
3. 篤胤、深淵 巨人の訓  
くおん かがや ほくと  
久遠に輝く 北斗と高く  
きんき まも ほしん はえ  
錦旗を護りし戊辰の栄は  
やどめ じょうとう かお  
矢留の城頭 花とぞ薫る  
れきし ほまれ  
歴史はかぐわし 誉の秋田

みんぞくすぐ しつじつごうき  
4. 民俗勝れて 質実剛毅  
じち たい  
正義と自治とのさとしを体し  
じんざいあまね はぐく  
人材遍く 育みなして  
さん りそう も われら  
燦たる理想に 燃え起つ我等  
しじゅん きょうど ひら  
至純の郷土と 拓かん秋田





西木 正明 作家

昭和15年5月25日生まれ。秋田県仙北郡西木村出身。西明寺小、中学校、県立秋田高校昭和34年卒業を経て、早稲田大学教育学部中退の後、平凡出版（現・マガジンハウス）に14年余り編集者生活を送り、昭和55年独立して、作家活動に入る。

## （受賞と主な刊行物等）

- デビュー作『オホーツク諜報船』（角川書店刊）  
昭和55年第7回日本ノンフィクション賞新人賞受賞。  
昭和63年『凍れる瞳』『端島の女』（文芸春秋刊）第99回直木賞受賞。  
平成7年『夢幻の山旅』（中央公論刊）第14回新田次郎文学賞受賞。  
平成12年『夢顔さんによろしく』（文芸春秋刊）第7回柴田錬三郎賞受賞。  
『凍れる瞳』（文芸春秋刊）日本テレビドラマ化。  
『悪夢の封印』（角川書店刊）フジテレビドラマ化。  
『蛇頭』（講談社刊）日米香港合作映画「チャイナシャドー」原作、  
宮本亜門演出・ミュージカル「香港ラブソディ」原作。  
『オホーツク特急』（青樹社刊）NHKテレビ連続ドラマ「鳥の唄」原作。  
『夢顔さんによろしく』（文芸春秋刊）四季ミュージカル「異国の丘」原作。  
『ルーズベルトの刺客』（新潮社刊）平成20年10月舞台化。平成21年  
夏以降中国上海電影で大河ドラマ化決定。
- \* 平成20年の新刊は『極楽谷に死す』（講談社3月25日刊）『ウェルカム・トウパールハーバー』（角川文庫12月刊）他に文庫や雑誌など多数。
  - \* 平成21年予定の新刊は『さすらいの舞姫（小説崔承喜）』（光文社7～8月刊行予定）『ガモウ戦記』（文芸春秋10月頃予定）『潜行三千里の謎（辻政信はなぜ消えたのか）』（徳間書店年末刊予定）

## （主な職歴）

日本推理作家協会賞、オール読物推理新人賞などの選考委員を歴任後、現在植村直巳冒険大賞、大宅壮一ノンフィクション賞、さきがけ文学賞等の選考委員。

NHK国際放送審議会委員、国土庁審議会専門委員・秋田県総合開発審議会委員内閣府生活達人委員会委員などを歴任。現在、日本ペンクラブ常務理事日本文学振興会評議員、笹川スポーツ財団評議委員、経済産業省産業遺産選定委員、海上保安庁アドバイザー、秋田大学客員教授など

以上

# 【ご来賓氏名】

(平成21年 7月 8日現在の役職・肩書により作成・敬称略)

文部科学省	事務次官	銭谷 眞美
秋田県議会	議長	大野 忠右エ門
衆議院議員		御法川 信英
〃		近江屋 信広
参議院議員	理事長	鈴木 陽悦
(独)日本スポーツ振興センター	教育次長	小野 清子
秋田県教育庁	課長	石井 周悦
〃 高校教育課	課長	白山 雅彦
秋田県東京事務所	所長	福原 秀就
〃	副主幹	館岡 雄浩
〃 平鹿地域振興局総務企画部	地域振興監	斉藤 譲
秋田県秋田市	市長	穂積 志
〃 〃 東京事務所	所長	菅原 真
〃 〃	秘書課長	鈴木 忍
〃 湯沢市	市長	斉藤 光喜
国際教養大学(秋田・昨年の講演者)	教授	勝又 美智雄
若い根っ子の会	代表	加藤 日出男
作家		西木 正明
作曲家		仙道 作三
演出・プロデューサー		嶋田 親一
秋田魁新報社東京支社	支社長	鐙 隆千代
〃	編集部長	田口 清洋
読売新聞社	論説委員	橋本 五郎
首都圏秋田県人会連合会	会長	煙山 力
〃	顧問	渡部 建蔵
〃	事務局長	大里 錦作
首都圏秋田懇話会世話人会	運営委員長	山本 巖
在京秋田ふきのとう会	相談役	佐藤 正幸
横浜秋田県人会	会長	横山 房男
けやき会	会長	伊藤 晶
たざわ湖芸術村(わらび座) 関東事務所	企画・営業代表	宮田 健太郎
皇宮警察本部	柔道名誉師範	佐藤 哲也
日本剣道連盟	副会長	加賀谷 誠一
ピアノ奏者(武蔵野音大器楽科卒)		上山 英明
音楽指揮者( 〃 )		上山 紀子
成田国際空港クリニック	所長	河村 堯
〃	事務室長	浅野 悦洋
有限会社 瑞穂(大潟村)	代表取締役	小林 肇
株式会社 大潟村同友会	代表取締役	仁田原 豊
有限会社 エンカレッジ	代表取締役社長	澁谷 明美
大学生による秋田活性化プロジェクト	A・ライン代表	三浦 航太
秋田プロバスケットボールクラブ株式会社	代表取締役社長	水野 勇気

## 【秋高連 顧問・相談役氏名】

在京秋田県高等学校同窓会連合会 顧問 佐々木 富也 (湯沢高)  
" 顧問 澤木 誠一 (秋田工高)  
" 相談役 畠山 信孝 (能代高)

## 【在京同窓会名および会員出席者氏名】

【 県北 】 13校 87名

大館鳳鳴高・東京鳳鳴会 (6名)

望月 久 村上 芳明 今福 輝子 田中 義雄 朝日 昌義  
田中 峰雄

大館桂高・かつら会東京支部 (5名)

鷺見 千代子 金森 裕子 井奈波園子 清水 啓子 吉田 泰子

大館工高同窓会・関東支部あかがね会 (3名)

鎌田 祐七 岩根 宏三 斉藤行雄

大館高同窓会 (代表者 小林 和博)

大館商高同窓会 (代表者 阿部 鐵夫)

小坂高同窓会・東京支部 (6名)

橋本 収 山崎 新生 岸谷 宏幸 森田 弘子 佐々木 哲  
勅使河原 君子

十和田高同窓会・東京支部 (1名)

荒谷 雄吉

花輪高同窓会・東京支部花栄会 (8名)

山本 時子 柿崎 直和 石井 政光 石川 澄好 味元 禎子  
根市 知宏 佐竹 恵子 阿部 裕子

鷹巣農林高同窓会・東京伊勢堂会 (6名)

布田祐五郎 河田 時男 小市 哲子 岩崎準志郎 斉藤 拓治  
工藤けい子

鷹巣高同窓会 (代表者 山岡 正人)

**米内沢高同窓会・爽風会 (13名)**

武石 鉄昭 松岡 利男 糸田 稔 佐藤 昭雄 疋田 力良  
安東 明憲 村田健三郎 磯谷清三郎 永井 三雄 庄司 政則  
加藤 静子 久野 久子 網谷カホル

**合川高同窓会・東京支部 (代表者 村岡 吉雄)**

**能代高・東京同窓会 (2名)**

畠山 信孝 山縣 輝輔

**能代北高同窓会・松蔭会東京支部 (8名)**

村山マサ子 松村 妙子 室井 典子 八戸 イセ 中島 淳子  
新井 陽子 安孫子光子 相川 智子

**能代工高同窓会・東籟会 (13名)**

鈴木 猛 藤田 幹夫 宮腰 昇三 鈴木 博之 斎藤 忠正  
藤原 俊昭 高田 和雄 福岡 幸雄 近藤 忠雄 本多十三男  
谷田 義男 松尾長二郎 笠原 忠義

**能代西高・関東同窓会東雲会 (13名)**

友成 穂秀 平川 直治 飯塚 武文 簾内 輝男 七戸 昭夫  
川村 智子 新堀 良輝 長岡 功 原田 幸子 伊藤 和男  
三戸 栄吉 渡辺 芳信 戸松 邦夫

**能代商高・東京同窓会 (3名)**

安岡 政勝 斎藤 敏司 佐藤千鶴子

**【 県 央 】 15校 142名**

**秋田高・東京同窓会 (19名)**

橋本 五郎 大野 省治 横山 樹静 村山 公士 秋山 文平  
大本香津子 宮腰 良一 大塚 正民 二木 猛 岩崎 雅典  
浅野 修 武内 暁 伊藤 広文 畑山 康幸 佐々木菜穂子  
百瀬 和 鈴木 忍 仁田原 豊 三浦 航太

**秋田北高・あげまき会東京支部 (17名)**

刈田 カイ 菅原美和子 平野恵美子 内田 淳美 小山 しん  
江尻 芳子 鶴澤由美子 金子 幸子 古川 詳子 木村 雅子  
佐々木千鶴子 鈴木 明子 初川 錫子 鈴木 敏子 角田 真理  
上山 紀子 澁谷 明美

秋田工高・東京秋工会 (14名)

三平 俊悦 加藤 善雄 富岡 陸男 加賀谷 健治 地主 勝己  
小野 鐵雄 赤川 均 佐々木 進 田口 芳美 奥山 恍  
高橋 陽之助 菊地 輝男 畠山 昌裕 澤木 誠一

秋田商高・東京雄水会 (7名)

和田 武男 金子 信也 佐藤 聰明 阿部 信男 岸本 六蔵  
原田 秀一 伊藤 晶

秋田南高同窓会・東京南翔会 (20名)

榎 利美 栗原かほる 三浦 和幸 大山 寛康 立花 克憲  
南部 春美 川尻 英子 安藤 廣子 山内加代子 大森 素弘  
鈴木 仁司 中川 重浩 佐藤 和子 柏倉 晃 佐藤 勉  
高橋 伸宏 山本 伸 守田 孝 山岸 均 小林 肇

秋田中央高・東京同窓会東京一交会 (12名)

佐藤久太郎 保坂 悟 三浦 貴和 地主 英夫 平賀 君子  
中村千枝子 金子夕カ子 乳井 豊昭 福田佳代子 林 英子  
森 伸夫 嶋田 親一

秋田西高同窓会 (代表者 山内 光之)

秋田経法大付属高・関東支部 (5名)

近藤 正司 藤原 春雄 鎌田 柁規 中鉢紀久雄 菅原 進

金足農高・東京同窓会 (8名)

山本東四春 千田 武夫 二田勇太郎 工藤 祐政 高橋 敏克  
佐々木えち子 佐々木計三 武田由美子

新屋高同窓会・東京支部 (代表者 二宮 弘道)

男鹿海洋高同窓会・関東支部 (2名)

中村 進 船木 俱子

五城目高同窓会・東京森山会 (7名)

武埜 利男 三浦 二郎 千田 清己 館岡 清 広島 博夫  
齊藤 修 一関清四郎

本荘高・東京同窓会 (11名)

打矢 進 庄司 一春 佐々木健治郎 伊藤 宏男 工藤 泰蔵  
川原 健次 池田 哲三 木村 茂 田口 宏 工藤 晋  
吉沢 厚子



**由利高同窓会・ゆりの会東京支部 (6名)**

小笠原了子 葛原 愛 鈴木喜美子 久保山美代子 薄葉 エミ子  
大場 寿子

**由利工高・東京同窓会桃源会 (3名)**

畑山 敏也 長谷山 盛 佐藤 豊

**仁賀保高同窓会 (代表者 西村 春彦)**

**矢島高拓道同窓会・関東支部 (5名)**

藤原 龍治 高木 正子 伊藤 節子 佐藤 和義 竹下 健

**西目高同窓会・東京新志芽会 (6名)**

岩月 芳弘 佐藤 六郎 金森 幸二 麻生 寿吉 小野 均  
工藤 新

**【 県 南 】 12校 90名**

**大曲高同窓会青麻会・東京支部 (1名)**

三浦 信良

**大曲農高・東京大農会 (4名)**

佐々木強二 藤井 秋郎 鎌田 茂 大友 律子

**角館高・東京支部東京若杉会 (11名)**

橋本 清 中山 文夫 菅原 孝一 田口 文俊 土井幸四郎  
高橋 泉 稲葉 邦男 福田 茂樹 島崎 均 真崎 軍平  
斉藤 政美

**角館南高同窓会 (7名)**

能見 京子 佐々木美代子 坪松キヨ子 筒崎美智子 栗原 洋子  
前畑 栄子 西方 道子

**六郷高同窓会・関東支部 (4名)**

大見 光子 関口 勲子 茂木 壽 今川より子

**横手高・東京美入野同窓会 (14名)**

柴田 秀二 金沢 亀治 高橋 和美 加藤 祐悦 今川 政春  
菊池 羊二 佐藤 健 柴田 隆昭 藤原 亮一 藤原 弘四  
遠藤徳家志 手塚 慶一 栗谷 秀美 土肥 敬一

**横手城南高・銀杏同窓会東京支部（12名）**

鈴木 侑子 近藤 睦子 柳瀬 和子 石谷 洋子 竹澤 球子  
加藤 則子 堤 明美 江口美紀子 原 純子 千葉 桃子  
氏家智恵子 松本 友子

**横手工高・横手清陵学院高 同窓会・関東若つた会（17名）**

佐藤 芳蔵 佐藤 哲也 栗原 健三 坪井 武 宮本 光雄  
高橋 実 藤原 和広 佐藤 茂 相馬 基 太田 佐内  
高橋 郁夫 原田 貞 奥山 六郎 小松 勝治 小玉政次郎  
高久 浩二 神谷 克司

**増田高同窓会・関東支部白鳩会（1名）**

北村 紀子

**湯沢高同窓会・東京愛宕会（9名）**

長瀬 良市 佐々木富也 山本 昭夫 小西 貞子 杉淵 邦夫  
金子 政雄 遠藤 敏郎 佐々木茂之 羽角 剛

**湯沢北高・鈴懸同窓会（7名）**

山田 雅子 柿沼 厚子 春日部 操 矢城 孝子 丹尾 愛子  
平元美津子 小野寺洋子

**湯沢商工高・首都圏まほろば会（3名）**

中川 建二 河内山きみ子 中川 愛子

**【友好組織】 1校 3名**

**聖霊学園同窓会・関東支部ちどり会（3名）**

平川 千世 鳥海千佳子 初山 量子

**羽後高同窓会（代表 高橋 勝美）**

参加者合計 322名（加盟組織 40 友好組織 1）

# 秋高連 運営委員会議事内容編 (平成21年度総会)

秋高連は運営委員会を最高議決機関と位置づけ本年は4月24日(金)に20年度事業経過・決算および21年度事業計画・予算等の審議を行い提案通り確認を得てスタート致しました。その内容を以下に添付致しましたのでご参照下さい。

なお、秋高連は明年度(平成22年)に連合会結成25周年を迎えます。

大きな節目としてこれまでの足跡を編纂する作業を予定しております。つきましては関係する資料・写真・VD等の情報をお持ちの方は恐縮ですが別紙参照の上、記載された方向方でも結構ですのでご連絡下さい。

# 「秋高連」新年度のスタートに際して

会長 友成 穂秀



緑滴る4月を迎え「秋高連」は新年度の活動がスタート致します。新たな気持ちで皆さんと一緒に取り組み活動を進めて参りたいと存じますので、ご理解を頂き積極的なご参加をお願いする次第であります。

昨年度を振り返って見ますと金融・経済情勢が一変する生活環境の分野にも大きな打撃を与え、会員の皆さんや単位同窓会等の運営にも少なからず影響し大変なご苦勞をさされている事と存じます。

その様な状況にあって、秋高連は計画した事業については皆さんのご協力を拝しながら着実に淡々と進めて参りました。

昨年の特記事項を挙げると郷土秋田でビッグイベントが一昨年の「秋田わか杉国体」に続き「秋田・全国植樹祭」が行われました。在京秋高連も故郷愛を発揮して2年続きの応援団を派遣することが出来ました。

しかしながら突然襲った岩手宮城内陸地震の影響で交通機関がマヒする中、精力的に参加協力を頂きました。参加頂いた皆さんには深く感謝を致します。

併せて郷里との架け橋にとの想いで「秋高連・絆の桜木植樹」も千秋公園に予定通り行う事が出来ました。ご準備頂いた関係者の皆さんにお礼を申し上げ、皆さんが帰京の際にはそっと思い出し観賞して頂きたいものと念じております。

迎えて本年度の事業につきましては、恒常的な事業項目については各年次ローリングしながら実行して来ていますが、マンネリ防止のためにも常に質的向上を図る討議の場を大切にして参りたいと考えております。

特に来年度は組織結成25周年を迎える事を受けて、関連する諸事項を検討する委員会を設置し、どのような対応を図るべきかの答申を頂いて必要な準備を進める事に致したいと想います。

四半世紀に亘り育てて来た「秋高連」としても運営基盤（小さな運営機構で大きな成果を！）の整備を進め、魅力ある事業内容の推進に専念し「秋高連」の一層の存在感をアピールしたいものだと考えております。その様な姿勢が組織の円滑運営の源であり次なる秋高連の担い手たる会員には何よりのプレゼントだと解しております。

本日開催の運営委員会でご審議頂く内容は年間活動を総括し事業計画に反映させる極めて重要な案件でありますので、運営委員にあっては、事情をご理解の上ご審議を頂く様お願い申し上げます。

以上

# 秋高連・事業報告および事業計画

## 1. 20年度の事業報告

### (1) 会務報告(主な項目)

20/4月	19年度会計監査(1日)	運営委員会(9日)	10月	小野清子叙勲祝賀会(27日)
5月	役員会(21日)	運営委員会(21日)	11月	事務局連絡会(6日) 合同会議(役員会・運営委員会)(27日) 忘年会(27日)
	春季皇居見学会(12日)			秋季皇居見学会(28日)
6月	役員会(21日)	秋田全国植樹祭(15日)	12月	内陸線の集い(6日)
	秋高連絆の植樹(16日)		21/1月	事務局連絡会(15日)
7月	合同会議(役員会・運営委員会)(2日)			秋田県人新春交歓会(15日)
	全体総会(23日)		2月	役員会(20日)
8月	事務局連絡会(28日)	役員会(28日)	3月	事務局連絡会(13日)
9月	役員会(11日)	運営委員会(11日)		

### (2) 活動報告

加盟組織および会員の幅広い親睦交流と会則制定に伴う組織の円滑運営に務めた。各項目毎の活動内容は以下の通り。

- ① 事務局連絡会が立ち上がり検討議題の整理等を行って役員会や運営委員会の充実運営のための端緒に着いた。
- ② 情報共有の立場から会議レジメの作成併せて加盟全組織への資料配布を行った。
- ③ 20年度版の役員および加盟組織のネットワークしおりを発行した。
- ④ 専門委から答申を受けた「秋高連憲章」は役員会の承認をえ別紙の通りとなった。
- ⑤ 春秋の皇居見学会では57名の参加で好評を得、秋高連のPRにも役立った。

- ⑥ 秋田全国植樹祭に秋高連代表団(当初34名の予定が内陸地震発生で12名)が参加。北秋田市の北欧の杜で楓の植樹を行った。
- ⑦ 植樹祭の翌日、秋高連絆の植樹・郷里との架け橋にの想いで千秋公園・明徳図書館庭にソメイヨシノ苗木二本を植樹した。
- ⑧ 「全体総会」「秋の集い・忘年会」は秋高連の二大イベント的な行事の位置づけとなっており、何れも盛会裡に終了する事ができた。  
「全体総会」は「秋田の底力と展望」の講演1題と参加者交流(約300名)を行った。「秋の集い・忘年会」は加盟組織間および会員間の交流(74名)を重点に進めた。

## 2. 20年度の決算 (平成20年4月1日~21年3月31日)

収入の部			
費目	予算	決算	備考
前年度繰越	327,604	327,604	
年会費	400,000	300,000	30校納入
総会費収入	2,250,000	2,025,000	会員270名
会議費収入	540,000	696,000	10回開催232名
忘年会費	360,000	444,000	会員74名
雑収入費	150,000	157,500	来賓祝金20名
受取利息	500	214	
収入計	4,028,104	3,950,318	

支出の部			
費目	予算	決算	備考
総会費	2,300,000	2,168,761	飲食191万円
会議費	480,000	598,850	懇談費室料含
忘年会費	360,000	444,681	飲食40万円
植樹祭関係費	80,000	12,639	挨拶・手土産
見学会関係費	50,000	18,000	懇談助成
絆植樹関係費	130,000	115,500	むつみ造園
通信費	100,000	125,554	資料郵送代
事務費	100,000	207,489	内印刷費7割
交際費	50,000	46,445	対外招待
雑費	40,000	53,431	植樹グッズ等
次年度繰越	338,104	158,968	
支出計	4,028,104	3,950,318	

### (1) 決算

- ① 収入関係  
対予算比約7万円の減収。これは年会費減と総会参加人員の減員によるもの。
- ② 支出関係  
対予算比約17万円の支出増。主な要因は総会経費と事務費(印刷)の増によるもの。
- ③ 経常ベースの検証  
繰越金を除いた経常ベースで検証すると収入362万円-支出379万円=▲17万円と赤字決算となるが、植樹祭等の特別経費が理由。従って、繰越金が約15.9万円に減少した。

### (3) 会計監査報告

1. 監査年月日 平成21年4月1日(水)
2. 監査対象期間 平成20年4月1日(火)～平成21年3月31日(火)
3. 監査結果
  - (1) 現金・預金 平成21年4月1日現在で現金手元有高、郵便預金通帳と残高照合の結果、適正であり相違ないことを確認した。
  - (2) 帳票類 平成21年4月1日現在、会計帳票簿類は正確かつ適正に処理されていることを確認した。

会計監査 柴田 秀二 印  
 " 山崎 新生 印  
 " 一関 清四郎 印

### 3. 21年度事業計画および予算(案)

#### (1) 事業計画

会則の整備、憲章の制定等組織活動の基礎的要件が整ったので、25周年の節目に向けて本年は組織の充実運営に務めると同時に既存事業の定着とさらなる融和・親睦・躍進を視野に進めたい。事業項目は以下の通り。

- ① 重点的には結成25周年事業・行事への対応と組織の運営への対応について、以下の具体的な措置を講ずる事にしたい。
  - \* 記念事業・行事検討委員会を設置する
  - \* 資料・記録等編纂整理小委員会を設置して記録の整理および補完等の作業を進める。
  - \* 事務局連絡会は適宜適切に課題整理し役員会の補助的役割を担って活性化を図る
  - \* 検討課題として組織面では個人参加、運

営委員の重任、他団体との連携拡大等。財政面では財政見通しの策定等を進める。

- ② 恒常的な事業項目については以下の通り。
  - \* 機関運営の定着化
  - \* 春季見学会(皇居・4月)
  - \* 運営委員会の開催と交流会(総会・4月)
  - \* 役員会&会員親睦交流会(日光・6月)
  - \* 全体総会の開催と交流会(7月)
  - \* 特別見学会(迎賓館・7月～8月)
  - \* 秋田県東京事務所との連携・対談(9月)
  - \* 秋田銘酒とトークショー(秋高と共催・10月)
  - \* 特別見学会(東大農場・10月～11月)
  - \* 秋の集い・忘年会の開催と交流会(11月)
  - \* 新年賀詞交歓会への参加(1月)

#### (2) 予算案

(平成21年4月1日～22年3月31日)

##### ① 編成集方針について

基本的に総会、忘年会、会議等の懇親経費は参加者の参加費で賄われており収支はツーペイの関係である。適正な参加費額と支出経費の対費用効果を優先。その他の収入は加盟組織からの年会費で一般活動を支える構図に変わりなく納入率100%を目指した組織運営に務めたい。なお、本年度から費目名のラップを避けるため参加費を附加した費目とした。

##### ② 具体的な内容について

引き続き各種イベントの質的向上に務めながら、広い層の参加を期待し対前年度より参加人員10%増と見込んだ。一方、日常活動面では組織や会員に対するきめ細かなサービスを前提に通信費および印刷費は若干増を見込み編成した。なお、次年度は組織結成25年に当る事から本年度は可能な限り節減を前面に出しながら支出には十分な留意を払っていききたい。

収入の部		
費目	予算	備考
前年度繰越	158,968	
年会費	400,000	40校×10,000円
总会参加費	2,325,000	310名×7,500円
忘年参加費	420,000	70名×6,000円
会議参加費	600,000	200名×3,000円
雑収入	0	
受取利息	300	
収入計	3,904,268	

支出の部		
費目	予算	備考
总会費	2,325,000	飲食室料代、講演他
忘年会費	420,000	飲食代、室料、
会議費	600,000	室料、弁当代等
通信費	130,000	資料等の郵送代
印刷費	150,000	会議等の資料印刷代
事務費	30,000	事務用品関連
交流費	50,000	対外連絡会費用含む
雑費	40,000	検討委設置、植樹維持
予備費	159,268	
支出計	3,904,268	

(別紙)

# 20年～21年度 役員体制

(秋高連)

会 長	友成 穂秀 (能代西高)	
副 会 長	(総務部長)	
	布田 祐五郎 (鷹巣農林高)	刈田 カイ (秋田北高)
	(財務部長)	
	佐藤 芳蔵 (横手清陵学院高)	榎 利美 (秋田南高)
幹 事 長	(広報部長)	(渉外部長)
	長瀬 良市 (湯沢高)	鈴木 猛 (能代工高)
副 幹 事 長	大野 省治 (秋田高)	
	山本 東四春 (金足農高)	畑山 敏也 (由利工高)
	高橋 実 (横手清陵学院高)	宮腰 昇三 (能代工高)
	村山 マサ子 (能代北高)	高田 政勝 (能代高)
	能見 京子 (角館南高)	和田 武男 (秋田商高)
	石井 政光 (花輪高)	山田 雅子 (湯沢北高)
	中山 文夫 (角館高)	近藤 正司 (経法大付高)
	佐藤 久太郎 (秋田中央高)	鎌田 茂 (大曲農高)
	鷺見 千代子 (大館桂高)	武石 鉄昭 (米内沢高)
	(総務副部長)	
	三平 俊悦 (秋田工高)	
会 計	鈴木 侑子 (横手城南高)	中村 進 (男鹿海洋高)
	安岡 政勝 (能代商高)	
監 査	柴田 秀二 (横手高)	山崎 新生 (小坂高)
	一関 清四郎 (五城目高)	

顧 問 佐々木 富也 (湯沢高)

” 澤木 誠一 (秋田工高)

相 談 役 畠山 信孝 (能代高)

【役員総数】 = 31名

【顧問・相談役】 = 3名

(別紙)

## 秋 高 連 憲 章

秋高連は、在京の秋田県高等学校同窓会それぞれの母校の伝統と校風を尊重し、各同窓会会員相互の親睦と連携を深め、われらを育ててくれた母校と秋田県勢の発展に貢献することを宣言する。

### 行 動 指 針

1. 秋高連は、それぞれの母校の伝統と校風を尊重し、各同窓会会員相互の親睦と連携を深め、連帯意識の高揚をめざす。
2. 秋高連は、在京の各同窓会会員全員に対して活動の場を提供し、名実ともに「開かれた秋高連」の形成をめざす。
3. 秋高連は、魅力的で活力あるネットワークの形成を目指し、その情報を内外に発信する。
4. 秋高連は、秋田県勢の発展に貢献するという共通の認識のもとに、郷土秋田の発展に資することをめざす。

在京秋田県高等学校同窓会連合会  
(略称 秋高連)



# 秋高連の資料を探しています

## 目的と趣旨：

秋高連が2010年に創立25周年を迎えることに鑑み、相互の親睦と参加母校及び秋田県勢の発展のためにどのように運営されて来たかを詳らかにし、今後の秋高連運営の資とします。

## 探している資料

- (1) 創立10周年記念誌、創立20周年記念誌、及び各年度の全体総会出席者名簿以外の記録
- (2) 平成18年度以前の全体総会写真、及び秋高連事業・行事等の写真
- (3) 秋高連の前身である「連絡会」に関する資料

これらの資料をお持ちの方は次の連絡先に御一報お願いいたします。資料は一時お借りし使用後お返し致します。

## 連 絡 先

個人情報のため4桁削除

(委員長)	
榎利美 (秋田南高) 090-1019-	toshimi1963@ybb.ne.jp
(副委員長)	
大野省二 (秋田高) 090-5771-	kouraku@m6.gyao.ne.jp
(副委員長)	
畑山敏也 (由利工高) 090-2561-	t-hatayama@kabukyou-wa.com
長岡功 (能代西高) 090-1401-	nagaoka-4823@tbr.t-com.ne.jp
宮腰昇三 (能代工高) 090-5542-	m.syou3@gmail.com.ne.jp
望月久 (大館鳳鳴高) 080-1071-	h-mochizuki@tbs-net.co.jp
山田雅子 (湯沢北高) 090-8461-	y-masaco@pop06.odn.ne.jp
高橋実 (横手清陵学院高) 090-7217-	sunyamato@navy.plala.or.jp
能見京子 (角館南高) 090-3136-	k.nomi@crocus.ocn.ne.jp

締め切り： 21年8月22日

(別紙)

在京秋田県高等学校同窓会連合会（略称：秋高連）

## 創・設立の沿革（メモ）

### (1) 初連絡会の開催

（秋田県知事の抱負を開陳。11校による発起人会の設置が決定）

1982（昭和57）年4月連絡会初会合・発起人会の開催（丸ノ内ホテル）

幹事校＝秋田高（呼掛け人代表・金谷勇氏 秋高連初代会長）

大曲農高（畠山達郎氏 秋高連第2代会長）

湯沢高（佐々木宮也氏 秋高連第3代会長）

秋田工高（谷藤氏）、大館鳳鳴高（成田氏）、秋田北高（三浦氏）

横手高（戸部氏）、秋田商高（柴辻氏）、本荘高（荒川氏）

能代北高（斎藤氏）、能代工高（成田氏）。11校11名が初会合に参加。

### (2) 第2回連絡会・発起人会の開催

（11校による発起人会の設置を再確認。創立の理念・構想等について実質的な討議）

1983（昭和58）年1月遠路会・発起人会を開催（小田急ハルク）し創立の意義・

理念、構想等に就いて出席者から活発な意見交換・討議。

### (3) 第3回連絡会総会・発起人会を開催

（会員相互の親睦、県勢の発展に資することの2本柱を承認）

1984（昭和59）年8月（グランドパレスホテル）秋田放送取材・放映

当日の連絡会総会出席者全員に対して、ご来賓・秋田県知事（佐々木喜久治氏）

挨拶の中で、「故郷・秋田県を後にして世界一の大都市・東京で日々公私に亘っ

て切磋琢磨しておられる多くの秋田県出身者が生活されている。この大勢の在

京秋田人は社会経験・人脈、学識と知識、知恵と見識、技能等を蓄えた人材と

して、来21世紀の郷里・秋田県にとって必要且つ有益な人材として必ず活躍さ

れます。」「郷里・秋田と東京を太い絆で結ぶ為に、在京の秋田県内高校卒の方

々々を中核とした会（組織）で、秋田県の展望・県政等について毎年・定期的に

東京で語り合いたいと言う願望を抱いております…」と述べられました（秋高

連創立の淵源）。

秋田県知事のメッセージを出席者全員・全会一致で歓迎し承認する。「会員相互

の親睦」と「県勢の発展に資する為に連繋を図ること」を承認。

### (4) 第4回連絡会総会を開催

（秋高連は郷里・秋田県内の高等学校卒業後、関東圏（東京）に在住し、各高校

同窓生が相集い同窓会を組織その連合体である。教育・啓蒙を加えて3本柱とし

て承認）

1985（昭和60）年11月（市ヶ谷会館）秋田テレビ取材・放映

ご来賓・土田防衛大学長スピーチ。鈴鹿出納長挨拶・県政報告。

### (5) 第1回総会

（在京秋田県高等学校同窓会連合会発足。会則、役員決定。初代会長・金谷勇氏

（秋田高卒））

1986（昭和61）年11月（グランドヒル市ヶ谷）総会にて会則、役員等決定・承認。

在京秋田県高等学校同窓会連合会発足。27校250名参加。加盟各高校の校歌発表

秋田県教育庁・永井隆一氏 県政報告及び講演。

# 在京秋田県高等学校同窓会連合会・会 則

## 第1条（名称）

本会は、在京秋田県高等学校同窓会連合会（略称・秋高連）と称する。

## 第2条（目的）

会員相互の親睦を図り、秋田県との緊密な連携をとり、各母校ならびに秋田県勢の発展に貢献することを目的とする。

## 第3条（事務局）

本会の事務局は、首都圏に置く。

## 第4条（事業）

本会は第2条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 会員相互の親睦に関すること。
- 2 秋田県政への提言に関すること。
- 3 その他、本会目的を達成するために必要な事業

## 第5条（会員）

本会は、秋田県高等学校同窓会在京支部の会員で構成する。

## 第6条（運営委員）

運営委員は秋田県高等学校同窓会在京支部より推薦された者とする。

## 第7条（役員及び役員の選任）

本会の役員は、運営委員会において原則として運営委員の中から選任する。

会 長	1 名
副 会 長	若 干 名
幹 事 長	1 名
副 幹 事 長	若 干 名
会 計	3 名
監 査	3 名

## 第8条（顧問及び相談役）

本会は顧問及び相談役を置く事ができる。

- 1 顧問及び相談役は会員の中から運営委員会の承認を得て会長が委嘱する。
- 2 顧問及び相談役は会長が必要と認めた事項についてその諮問に応ずる。

## 第9条（役員の職務）

役員の職務は次の通りとする。

- 1 会長は本会を代表し、会務を統括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはあらかじめ会長が定めた順序に従い、その職務を代行する。
- 3 幹事長は会長の指示に従い会務を処理し、副幹事長は幹事長を補佐する。
- 4 会計は本会の会計を処理する。
- 5 監査は本会の会務及び会計を監査する。

## 第10条（役員任期）

- 1 役員任期は、4月1日より2年間とし再任を防げない。
- 2 会長の任期は原則として2期4年を限度とする。
- 3 役員は、任期満了後でも、後任者が就任する迄は、なおその職責に任ずる。

## 第11条（会議及び総会）

### 1 役員会

- (1) 役員会は第7条の役員で構成し、次の(2)及び(3)の各事項を審議する。
- (2) 運営委員会に付すべき事項の承認
- (3) 運営委員会の議決を要しない事項の承認
- (4) 役員会は会長が招集する。
- (5) 役員会の議長は、会長がこれにあたる。

### 2 運営委員会

- (1) 運営委員会は秋田県高等学校同窓会在京支部より2名を上限として推薦された委員を持って構成し、本会の最高議決機関とする。
- (2) 運営委員会は、秋田県高等学校同窓会在京支部数の過半数以上の出席により成立し、議決は各支部1票とし過半数の同意による。
- (3) 運営委員が出席できない時は委任状を提出するものとする。
- (4) 運営委員会の議決事項
  - ア 事業報告及び決算の報告
  - イ 事業計画及び予算の決定
  - ウ 役員を選任
  - エ 会則変更の承認
  - オ その他、本会の運営に関する重要事項
- (5) 運営委員会は会長が招集する。
- (6) 運営委員会の議長は、幹事長がこれにあたる。

### 3 総会

本会は必要に応じて総会を開く事ができる。

## 第12条（会費及び会計年度）

- 1 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもって充てる。
- 2 年会費は同窓会在京支部毎10,000円とする。
- 3 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

## 第13条（細則の制定）

この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は別に定める。

## 付則

- 1 此の会則は、平成19年6月1日から施行する。
- 2 在京秋田県高等学校同窓会連合会会則(昭和61年6月9日制定)は、平成19年5月31日限り廃止する。

# 在京秋田県高等学校同窓会連合会・運用細則

## 1 会務運営に関する細則

役員会の中に事務局と事務局連絡会を設置する。

- (1) 事務局連絡会は、会長、筆頭副会長、幹事長、会計を持って構成し役員会に付議する事項を審議する。
- (2) 事務局は幹事長、副幹事長、会計をもって構成する。
- (3) 事務局に事務局長を置く。
- (4) 原則として事務局長の住所をもって会則第3条の本会事務局の所在地とする。

## 2 部会設置

会務執行の円滑化と活性化を図る為、次の部会を設置する。

### (1) 部会

- ア 総務部会： 会務執行に関する企画立案等
- イ 渉外部会： 未加盟組織等に対する渉外活動及び秋田県東京事務所、首都圏秋田県人会連合会との連携等
- ウ 広報部会： 秋高連よりの情報発信、広報誌、ホームページの立上げ記載業務、広告主の開拓等
- エ 財務部会： 会務運営上における財政等に関する事

### (2) 部会委員

- ア 各部会の長は副会長が就任し、副部長は事務局（担当）を除く副幹事長が担当する。
- イ 各部会の構成は部会長、副部会長のほかに運営委員を持って構成する。

## 3 表彰に関すること

- (1) 表彰対象者は通算3期6年以上を必要条件として役員会で別に審議する
- (2) 表彰状及び記念品をもってその労を称える。

## 4 慶弔に関すること

- (1) 役員、運営委員及び元役員を対象とし、本人の場合に限り下記のとおりとする。
  - ア 在任中の死去の場合は弔電及び香典（一万円）とする。
  - イ 元役員及び元運営委員の場合は弔電のみとする。
- (2) 慶事の場合は祝電のみとする。

## 5 会則の解釈

- (1) 会則第10条1項 任期途中で交代した時の当該任期は残余の期間とする。
- (2) 会則第11条2項 運営委員会  
運営委員会は本会唯一の議決機関であり、決議事項は各運営委員を通じて出身在京支部に周知するものとする。
- (3) 会則第11条3項 総会  
毎年一回開催される所謂全体総会においては、前記(1)に鑑み、会務決算、予算等の詳細報告を省略できる。従って全体総会は会員相互の親睦を主眼として開催する。
- (4) 会則第12条 会費  
運営委員、役員等の会議、親睦旅行等、その他の会費は参加者よりその都度徴収する。

付則 この運用細則は、平成19年6月1日から施行する。

ふる さと  
**故郷**

指揮 上山 紀子  
ピアノ 上山 英明

作詞 高野 辰之  
作曲 岡野 貞一

うさぎお  
1. 兎 追 い し か の 山  
こぶな つ  
小 鮒 釣 り し か の 川  
夢 は 今 も め ぐ り て  
ふるさと  
忘 れ が た き 故 郷

いかに  
2. 如 何 に い ま す 父 母  
つつが  
恙 な し や 友 が き  
雨 に 風 に つ け て も  
ふるさと  
思 い い ず る 故 郷

3. こ こ ろ ざ し を は た し て  
い つ の 日 に か え ら ん  
ふるさと  
山 は あ お き 故 郷  
ふるさと  
水 は 清 き 故 郷

# 秋田全国植樹祭記念

第59回（平成20年）

「手をつなごう 森と水とわたしたち」



（昨年6月明德館庭にて「さくら」の記念植樹する秋高連の皆さん  
秋田魁新報 6月17日掲載）

在京秋田県高等学校同窓会連合会  
（秋高連）

会長 友成 穂秀

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 1-22-8  
(T/F 042-222-2229)

【事務局】 幹事長 大野 省治

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-11-704  
(FAX 03-5802-6818) (携帯 090-5771-5331)  
(Email kouraku@m6.gyao.ne.jp)